

2023 年度 一般選抜中期日程／経済・公共マネジメント学科 英語
出題の意図と解答の傾向

I (160点)

英語を実際に使用する能力が身につけているかを見るために、設問もすべて英語とした。

問1 (20点)

【解答例】

しかし、真水は命に大切なものにもかかわらず、真水は地球上では極めて希少な資源である。

【解答の傾向】

its の指す内容を明示して訳すことを求めた。its は真水 (fresh water) を示しているが、直前の文にある水道設備 (plumbing systems) とする解答が多くみられた。命に直接重要なものは真水で、水道施設ではない。

“despite～” (～にもかかわらず) は、多くの受験生が正しく訳せていたが、though (しかし) を訳していない解答が多かった。though は挿入句で、前の文章に対する逆接なので、日本語に訳すには冒頭に「しかし、～」とする。文の間のつながり、論理展開を意識することが重要である。

後半にある extremely (極めて) を訳していない解答も散見された。

問2 (15点)

【解答】

e (not equally distributed throughout the world)

【解答の傾向】

正答が多かった。直前の Unfortunately と、後段の真水が豊富な地域とそうでない地域があるという内容から、正答を導ける。

多い誤答は c で、次いで b が多かった。

問3 (20点)

【解答例】

その結果として、発展途上国に改善された水資源を提供することは、国際組織にとって重要な目標である。

【解答の傾向】

providing が動名詞で “～countries” まだが主語となっている。この構造を読み解くことができず、improved に注目したのか、「向上すること」「改善すること」を主語とした誤答が多くみられた。また provide (提供) を、「獲得」「促進」「向上」「改善」と訳した誤答もあった。加

えて、「…に～を提供する」という意味となる“provide ~ to …”を、「発展途上国において」「発展途上国で」など、場所を示す意味と訳した誤答もあった。

“international organizations”（国際組織）を、国連（United Nations）と訳したものや、「国際社会」「国際政府」「国際関係」「国際協定」「国際組合」「国際的な取り組み」「国際的企業」と訳した解答も散見された。international を「国家」「世界」と訳した解答も少数あった。このほか、organizations を「組織たち」と表現した、日本語として違和感がある解答もしばしば見受けられた。

“developing countries”（発展途上国）を、「先進国」「発展した国」とする誤答も見られた。このほか、冒頭の“As a result”（結果として）を、「つまり」「実際」などと訳した解答者もいた。goal（目標）を訳さず、「ゴール」と表記している解答もあった。

問4（20点）

【解答例】

水を田畑にひくという農業活動には、世界で10億人以上が関わっており、経済価値として毎年2.4兆ドル以上を生み出している。

【解答の傾向】

設問の指示通り、These が指す内容を明確に訳出することが必要である。These は直前の文の内容を指している。また動詞が involve と generate の2つであることに気付くことも重要である。これらの点については、ほとんどの受験生が正しく解答できていた。

over（～以上）や、billion（10億）、trillion（1兆）という数字を正確に訳す必要がある。billion を「1億」、trillion を「1千億」「1千万」とする誤訳が散見された。

問5（35点）

【解答例】

エチオピアとエジプトは共にナイル川を水源としているが、ダムを作ろうとしているエチオピアにエジプトが反対している。（55字）

【解答の傾向】

概ねよく解答できていた。下線部に続く、エチオピアとエジプトがナイル川の水源に関して対立している内容を、60字程度でまとめればよい。

問6（15点）

【解答例】

ア. climate イ. will ウ. frequency

【解答の傾向】

アは比較的正答が多かった。“climate change”（気候変動）は単語として覚えていた学生が多かったのだろう。ただし、スペルミス（crimate、climat、climinate など）は多かった。

weather や複数形の climates とした誤答もあった。

イは正答が少なかった。将来のことを述べていること、空欄直後に動詞の原形があることに気付くと、未来形の will を導くことができる。誤答としては、“water resources”, “water demand”, “water fight” など、直前の water と組み合わせた名詞を解答したものが見受けられた。

ウはほとんど正答できていなかった。前置詞から “with frequency” (頻繁に) が導けるが、frequent や frequently との誤答が多かった。このほか、often, happen, time, opportunities, occurring などの誤答が多かった。

問7 (20点)

【解答】

A. found B. locked C. supplies D. turned

【解答の傾向】

適切な動詞を選択できていない解答が多かった。また、活用形まで正しく解答できたものは少なかった。

Aは、「地球で見つかる水」という意味になる。find を過去分詞にすることで、後置修飾で water の説明を付け加えられる。find、finding といった誤答や、finded、founded との誤答も多かった。

Bは、“lock up” (しまい込む) という表現が難しかったかもしれない。直前に is があるので受動態にする。looked という誤記も見られた。

Cは、直前の that は関係代名詞、空所に入れる動詞の目的語は “nearly 85 percent of Egypt’ s water” であるとわかるので、「供給する」を意味する supply となる。先行詞は waterway なので3単現の s をつけるが、supplys という誤答も多かった。

Dは、“turn into ~” (~に変わる) を選ぶ。空所の前に “has not yet” があるので、現在完了形と考えて過去分詞形にすればよい。

問8 (15点)

【解答】

b (Access to fresh water can be important not only for people’ s health but also for the economic development of the region.)

【解答の傾向】

正答率は高かった。第3段落の水不足が経済発展に影響を与えるとの記載、第4段落のきれいな水が手に入らないことで健康に害が及んでいる人々がいるとの記載、第6および7段落に水へのアクセスがあることによる経済効果の記載をみると、正解にたどり着ける。

II (40点)

【解答例】

ア. to イ. notice[tell] ウ. water エ. them[flowers]
オ. do カ. with キ. estimated ク. that
ケ. was コ. less

【解答の傾向】

2つの空所に適切な単語を記入し、2人の会話文を完成させる問題である。空所のうち1つは、単語リストから適切な動詞を選択し、必要な場合は活用して記入する。問題の条件をしっかりと理解して解答してもらうため、設問の説明部分は日本語で記載した。

1問目は、Emilyの「清潔な水を手に入れられない人がいると知らなかった」という発言に対して、Kenが「気づくのは難しい」と言っている。“It is+形容詞+to+動詞の原形～”で「～するのは…である」という意味の構文となる。この設問は、ほとんどの受験生が正答できていた。

2問目は、Saraが直後に「以前は水道水を使っていたが今は雨水を集めている」と言っていることから、Chrisは「毎日それら(=花)に水をあげなければならないのですね」とたずねている。waterは動詞で「水をやる」という意味があることに気付くことが重要である。直前に“have to”があるので、動詞は原形となる。「take / water」や「do / it」とした解答が比較的多く見られた。

3問目は、「エジプトの文明が洪水のおかげで発展した」というMs. Smithの発言の内容が理解できないMattが「洪水は文明と関連があるのか」とたずねている。“have something[anything] to do with ～”で「～と関連がある」という意味となる。“do for”とした誤答が非常に多かった。

4問目は、「世界の人口が増加し続けたらどうなるのか」とのTomの質問に対するMariの回答である。未来の文であることから、estimate「推定する」を使う。直前にisがあるので受動態にし、直後に文が続くのでthatを入れる。estimateを原形で解答したものが散見された。

5問目は、空欄部に続くやり取りから、Fatherは「湖は今ほどきれいではなかった」と言っているとわかる。“is not”や“was not”という解答が多かったが、thanがあるので、“less+形容詞・副詞の原級+than～”(～ほど…ない)という劣等比較を用いる。“was more”という誤答も多かったが、これでは「湖は現在より美しかった」という反対の意味になってしまう。